

北川さんの書道

中野塾支部長
北川 淳

みち — 子どもたちに伝えたいこと —

子どもが描いた似顔絵

フォーラムに参加したきっかけ

私は瀧口代表に誘われてぐんま教育文化フォーラムの会員になりました。瀧口先生との付き合いは、玉村高校の生徒と副担任だった20年前からです。当時からやたら張り切り癖のある先生は、ヤレ獅子舞やれだの太鼓やれだの勧めてくれ、当時思春期で少しヘソの曲がっていた私には少々迷惑な先生でした…。ですが、高校卒業後もなにかと連絡をくれ、今でも馬鹿な生徒とモジャモジャ頭のいい加減な先生との関係はなぜか続いています。ほんとありがたい話です♪

虚弱体質の自分が空手を始めて

私は幼少の頃から【空手】というものをずっとやってきました。他のことは何をしても続かなかったのですが、なぜかこれだけはいつの間にか32年続いていました。

私は今じゃゴリラだのなんだの言われるような風体をしていますが、実は幼少の頃はアトピーだのアレルギーだのしまいには他人の入った風呂に入ると全身かぶれてしまうほどのガリガリの虚弱体質でした。そのせいかほとんど外で男の子と遊んだ記憶がありません。家の中で近所の女の子と絵を描いたりあやとりをしたり、そんなオカっぱ頭の男の子でした。そんな私を見かねどちらかという気の荒い父親に手を引かれ泣きながら道場に連れ

て行かれたのが空手との出会いでした。

道場の先生はその筋では弟子が直ぐやめてしまうほど厳しくて有名な中野先生でした。先生は見た目は小さいのですが、体は筋骨隆々、頭は坊主、口髭、道着は黒、手には木刀…本当に怖く厳しい先生でした。強くなるようにと通い始めた道場ですが、やはりそこでもいじめられ、泣いていると今度は先生に怒られ、小便をもらしながら正座ばかりしていました。直ぐに空手を辞めたいと父親に話しましたが、逆に頭を殴られ泣きながら引きずられて道場に連れて行かれる。そんな空手の始まりでした。

ところが数年が過ぎた頃、いつも学校の運動会でビリだった駆けっこが学年で一番になったんですね！やがて、他の道場生みんなで出場した空手の大会で、いじめられっ子の私が優勝してしまったんですね。その時あの怖かった先生が「な！お前は出来たぞ！お前は自分が思っているよりずっと強いんだぞ！」って初めてほめてくれました。只々辛いだけでしかなかった空手が自分の自信に変わった、そう初めて思えたことを40歳手前になった今でも忘れていません。先生が亡くなった今、周りの兄弟弟子たちは本当に怖い先生だったと言いますが、私はたまに見せたクチャクチャの笑顔の方ばかり思い出します。

強くなるだけの空手から

空手を続け 30 年たった今年、先生の名前を入れ、自分の道場の看板をあげました。

実は今まで空手を誰かに教えようと考えたことはありませんでした。自分の空手道の中で、自分がいかに稽古をするか？いかに自分が強くなれるか？それだけを考えていました。教えてほしいという人もいましたが、強くなることしか考えていなかった私の所に来る生徒たちはやはりただ強くなること、それだけが目的でした。その生徒たちも徐々に試合が出来るようになり、強くなったことを実感すると辛い練習からはだんだん離れていきました。仕事が終わって夕方から稽古、それからランニング。そんな生活ばかりをしていれば強くはなりますが、その他のことはほぼ捨てなければなりません。真剣に空手をすればするほど一人になっていく。だったら自分だけで稽古をすれば良いと、ますます自分だけの空手になっていきました。



背中を押されて道場をもつことに

そんな中、子どもの時からずっとお世話になっている先輩から「淳、うちのかみさんとその友だちたちが淳に空手を習いたいとよ」と話がありました。半年ほどどうしようかと悩んでいたある日、先輩に「ちょっと時間があるなら、つき合えや」と見知らぬお宅に連れて行かれました。そこには見知らぬ子どもたちとその親たち数人が集まり、離れの内装を解体していました。その中のお父さんが私に向かって「先生、この建物なら使えますか？」と・・・もう既に工事は始まっていました。先輩や奥さんたちが私に内緒で道場を作ろうと進めてくれていたのです。さっき話をしたお父さんが近くにいた子どもに「ほら！この

先生はすごいんだからな！これから空手教えてもらえるかもしれないんだぞ！ちゃんと挨拶しろ！」と。私の知らない所で私はいつの間にか先生になっていました。もうここまできたらさすがに引けませんね。みんなが私の背中を押してくれたんです。それからは、仕事が終わってから夜みんなで床を張り、壁を直し、たくさんの人たちに手を貸していただき形になりました。最後に、亡くなった師匠の名と中川地区のみんなの役に立てたらと思い、フォーラムの須田章七郎先生に「中川道場」と書き入れてもらい看板をあげました。この道場は、私一人の力ではなく、たくさんの人たちの手を借りて完成したのです。

空手はおまけ

そんな中野塾、中川道場を始めてはや半年が経とうとしている今、大人・子どもを含め 20 人の生徒が来てくれています。私はこの道場で子どもたちに空手を教えることが大事だと思っと思っています。子どもたちが自分で目標を見つけそこへ進みたいと思った時に体力的な理由でその道を諦めないようにしてあげること、それが 1 つ。もう 1 つあります。今の世の中、生活をしていく上で必ず理不尽なことがあって、それを我慢しなければいけない。それが大人だと言う人もいるし、自分もそう思います。ですが、私が預かって教えている子どもたちには、出来る限りそんな理不尽をあたり前だと鵜呑みにするような大人にはなってほしくありません。間違っていることには相手が大人だろうと、友だちだろうと、相手のことを大事に考え「それは間違ってるよ！」と教えてあげられる、そんな子どもにしてあげたい。空手はそのおまけで覚えたら良いと思います。子どもたちが数年後、辛い空手の練習を続けてきて良かった♪と、子どもたちはもちろん自分も成長出来るような、そんな道場にしていきたいと思っています。